



◎★巻頭言 4期目の議員活動がスタート、前半2年は議長に

昨年10月に行われた市議会議員選挙で4期目の当選ができました。4期目ともなれば市民のみなさんに未知なる期待を抱かれていますわけではないので、現職でトップ当選は12年間の議員活動が評価されたと重く受け止めています。選挙が終わり、ここからが本当のスタートです。安曇野の未来を見つめ、子どもたちや次の世代が希望をもって暮らせるまちをつくるため、これまで以上に誠実に市民に身近な議員活動を続けていきます。



1万枚のリーフレットをみんなでポストインしました。また前期で実現した無所属議員の人事における先例の見直しや議員発議で制定した子どもの権利に関する条例など、市議会も変わりつつあります。望三郎も4期目の市議挑戦したのは更に議会改革を進めたいという思いからでした。そこで市議選後に行われた議長選挙において立候補し、議員22名による選挙

で議長に就任することができました。議決機関である議会の責任を果たし、政策提言機能を磨いて、市民のための「善政競争」を行政とやっていきます。



左記は議長選の動画。

望三郎の演説は26分30秒頃から。

◎★市長急逝、それでも安曇野市政と議会は歩みを止めず

昨年11月28日、太田市長が急逝され、突然の出来事に言葉を失いました。弔問の場で一言「ありがとうございました。」と声をかけさせてもらいました。五年前の市長選（私は市議選）の際に、お会いする機会がありました。この時に「次の議会を引っ張っていく方だと思っています。よろしくお願いします。」という言葉をかけてもらいました。当時直面していた洞合自然公園隣地の太陽光パネルの設置案件についても単身で視察に來られ、一目見て、「こりゃダメだ。（建ててはいけない。）」と言われました。市長になられた後、この開発計画は認定されず、洞合公園の自然環境は守られました。また私の議員としての1丁目1番地の課題である地元北小倉の廃棄物処理施設問題も、県の環境部長時に本件に対応されていたので問題の核心を認識されていました。裁判も終わり、原告被告の立場が

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政や議会が市民にとって身近になるために、虹（= Rainbow レインボウ）の架け橋となるような議員活動をしていきます。望三郎の活動はブログやフェイスブック、インスタでもどうぞ。



●プロフィール
大分県出身 56歳。東京経由で安曇野に移住し22年目に。三郷小倉に妻、妻の両親と暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議4期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

サポーターからの応援メッセージ 45



小林純子さん

（穂高／前安曇野市議）

望さん、4期目の当選そして議長就任おめでとうございませう。4度目の当選は当然のこととして、議長に選出された

ことは、これまでの安曇野市議会の常識＝あまたある市議会の常識をも覆すものでした。市議会の常識とは会派制度のことです。会派は「数の論理」（数は力なり）を体現するもので、多数を取った会派が議長を出し、その次に大きな会派は副議長を、といった暗黙の了解の上に成り立つものでした。政策集団というよりは、議会運営を思いのままにするため数にこだわるのが会派でした。このような議会の常識＝会派制度では起こりえない「奇跡」が、私たちの安曇野市議会では起こったのです。

私が副議長に選出された2年前、今日ここに至る「奇跡」の兆しを、私は深い感慨をもって受け止めていました。その兆しを見逃さず、議会改革に邁進してきた望さんは、今、安曇野市議会はもちろん、安曇野市民に最も必要とされる議長となりました。議長になっても、一議員としての情報発信は続ける。議長としての情報発信も必要。一般質問する議長がいてもいいはず。等々、新たな議会改革に積極的に取り組む覚悟の増田望三郎議長に大きなエールを送ります。

◎望三郎議員とのカフェトーク

日時：2月14日（土）pm1:30～3:30

場所：蔵のカフェレストラン清雅（豊科3550-1）※参加者は飲み物をご注文ください。市政の様々な課題や市民のみなさんが関心あるテーマについて、望三郎議員の考えを聴いてみたい、自分の考えも聞いてもらいたいという方、どうぞご参加ください。カフェしながらゆる～くおしゃべりしましょう。

望三郎の通信・SNSでの発信方針について

今期の前半2年は議長の立場もあり、議員と議長の内容を分けて発信していきます。

・政策や課題についての意見は「一議員として」の発信であることを明示する。(◎印)

・議長仕事に関しては、議会運営の役割や背景などの中立公平な説明に徹する。(★印)

議会の動きや仕組みは外から分かりにくい部分も多いため、「議会では何が話し合われているのか」、「どのようなプロセスで進んでいるのか」を市民のみなさんに客観的な視点で説明することは重要です。私の発信が議会をより身近に感じられるきっかけになれば幸いです。

★前半2年は議長として頑張ります

議長の仕事は大きく2つあります。一つは対外的な仕事。様々な団体や活動の会合に議会の代表として出席しています。もう一つは円滑な議会運営や議会活動の質をより高めていく仕事です。市民の負託を受けた議員22人の多様さや強みがより発揮され、その中から本質を見出す議会を築いていきたいと思います。

議長として以下の事項を議会運営委員会(=議運)に諮問し、検討をお願いしています。諮問内容は今回の市議選における危機的な投票率低下は、議会と市民との接遇機会が少ないことも一因と捉え、市民と議会がより身近になるような取組みを考えました。

これらの諮問項目は個別に各委員会などで検討されていきます。

1 ハラスメント防止の規定を含めた政治倫理条例の制定について

2 政策提言について

(1) 政策提言の検討の際、市民の意見をしっかりと広聴できる仕組みを組み込むこと。

(2) 全員一致を継続とするか否か。

(3) 政策提言提出後、行政の取組確認を行う常任委員会質問の実施について

3 ICTの活用について

(1) 議会におけるオンライン会議開催の検討及び準備

(2) 議会におけるSNS発信の検討及び準備

4 広聴交流部会の設立と、市内高校との意見交換会の開催について

諮問(しもん)とは…意見を尋ね求めること。市長は職員に対して指示・命令ができますが、市民によって選挙で選ばれた議員はみな対等です。そのため議長が指示命令をするということはありません、議長が出した議会運営の方針を議運に諮問する形となります。



議長として議事進行に専念

★◎今期は無所属議員19名でスタート

今期の議会では会派が1つ、他の19人は会派に属さない無所属でのスタートとなりました。これは安曇野市議会では初めてで、会派制をとる全国の市議会でもあまり例がありませんが、テーマや課題に応じてより自由に離合集散をし、取り組んでいけそうです。私も一議員として、新人議員のみなさんとの勉強会を行い、一般質問のやり方、議案の勉強会、行政との意見交換をやっていきます。新人のみなさんは議決権の重さを噛み締めながら、分

からないことを少しでも分かっていきたいという意欲が高く、熱のある勉強会になっています。

◎12月定例会トピック

12月定例会で決まりました。一議員として以下を注目しています。

【穂高にある本陣等々力家の再生活用事業】

このままだと朽ちてしまう文化的価値のある古民家を新たな価値を創造し、再生活用して保存しようというもの。PFIという公共施設の設計・建設・維持管理・運営を、民間の資金・経営力・技術力を使って行う手法で、8年度から11年度までの約9億6400万円の予算を議決しました。市の投資的チャレンジを注目しています。

【こども誰でも通園制度が始まります】

8年度からスタートする新制度で、保護者の就労の有無に関係なく、全ての子育て家庭に対して支援します。月10時間まで子どもを預けられます。既存の一時預かり制度とのすみ分け、現場園の負担増などの点も含め注目していきます。

【医療的ケア児の個別避難計画作成支援】

医療的ケアが必要な子どもたちの災害時の避難については、一人一人個別具体的に考える必要があります、これが予算化されました。

【穂高ルートインホテル建設に関する陳情書は不採択に】

地下水への影響や景観への懸念から、事業者による環境調査や住民説明を市に求めた陳情は反対少数で否決されました。市が事業者に対し、指導したり求めるための法的根拠がないという反対討論が多かったですが、私は地下水条例の理念をもって市はもう一歩突っ込んだ対応をすべきだと考えます。しかし法的には瑕疵が無いのでこのまま本事業は進んでいきそうです。

